

# 17年度の大学受験生数は69.1万人で、 前年度より3.1万人減!?

- 19年度には大学・短大“全入”時代へ突入か -

平成16年9月 旺文社 教育情報センター

文部科学省の「平成16年度学校基本調査速報」によると、16年度の大学受験生数(実数；浪人含む。大検等は除く)は72万2千人で、15年度より2万1千人(2.8%)減少したことは、既にお伝えした(16年8月発信)。また、中央教育審議会の大学分科会の資料によると、19年度には大学・短大全体の受験生数が入学者数と同数となり、当初予測より2年早く“全入”時代に突入するという。以下、基本調査速報や分科会資料のデータをもとに、17年度以降の受験生数等を予測した。

## 16年度の受験状況

16年度の大学・短大受験生数(実数：浪人含む。大検等を除く)は82万7千人で、15年度より2万7千人(3.2%)減少した。大学・短大別にみると、大学は72万2千人で前年度比2.8%減、短大は10万6千人で前年度比5.5%減であった。

一方、浪人や大検等も含めた大学・短大への進学率(18歳人口<ここでは3年前の中学校卒業者数を適用>に対する、大学・短大の入学者数の割合)は49.9%と過去最高となり、高等教育(大学・短大)への進学率が50%を超える、いわゆる“ユニバーサル化”が目前となった。大学・短大別にみると、大学への進学率は42.4%(前年度より1.1ポイント上昇)で、やはり過去最高を記録した(短大への進学率は0.2ポイント低下の7.5%)。

## 17年度以降の受験生数の予測

学校基本調査速報のデータ等を基に、中央教育審議会の大学分科会では、高等教育の将来構想(グランドデザイン)等の審議にあたり、基礎資料となる将来の高等教育の規模を試算した。それによると、大学・短大の受験生数は19年度に約67万5千人まで減少し、国内の全大学・短大への入学者数と同数になり、当初予測(平成8年の試算)より2年早く“全員入学”状態になるという。

“全入時代”到来が早まる要因としては、

- ①18歳人口・高校卒業者数の推移をみると、15年度以降は勾配のきつい下降線を描いて減少しており、この傾向は17年度以降も続くとみられる。
- ②近年の規制緩和に伴い、大学・学部等の新增設が活発化し、当初の予想以上に定員が増加している。
- ③大学・短大への現役志願率の伸びが、当初予測より鈍化している。

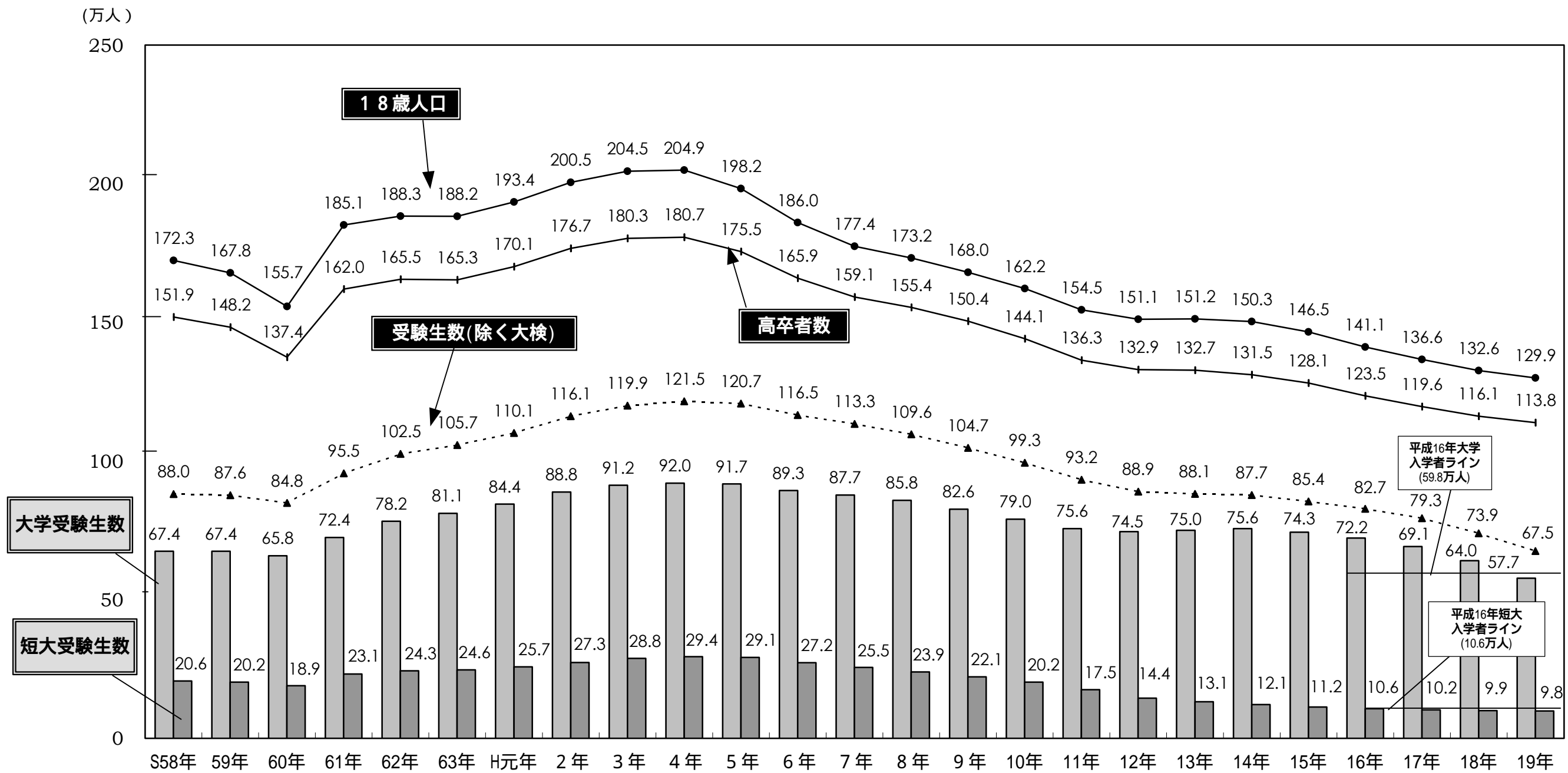
などが挙げられる。③に関しては、厳しい経済状況を反映して、資格取得に直結する専門学校への進学者が増加傾向にあることも影響しているとみられる。

こうしたことから、17年度の大学・短大受験生数（実数；浪人含む。大検等除く）は、16年度より3万5千人（4.2%）減の79万3千人程度になるものと予測される。このうち、17年度の大学受験生は3万1千人（4.3%）減の69万1千人程度、短大は4千人（3.8%）減の10万2千人程度とみられる。

\*                     \*                     \*

なお、18歳人口、高卒者数、大学・短大受験生数などの推移をグラフにまとめ、次頁に掲載したので、そちらも参考にしていきたい。

# 18歳人口・高卒者数 & 大学・短大受験生数の推移



進学率(%) (含む浪人)	35.1	35.6	37.6	34.7	36.1	36.7	36.3	36.3	37.7	38.9	40.9	43.3	45.2	46.2	47.3	48.2	49.1	49.1	48.6	48.6	49.0	49.9	51.5	53.0	51.9
現役志願率(%)	44.5	44.6	45.3	45.6	47.1	47.9	48.5	49.2	50.2	51.0	52.4	53.4	54.2	54.4	54.6	55.0	55.5	55.6	55.9	56.1	55.7	55.7	55.7	55.8	55.8

(平成16年以前は実数、17年以降は中教審大学分科会資料による推定値。18歳人口は、3年前の中学校卒業生数と中等教育学校前期課程修了者数の合計)

© 旺文社 教育情報センター/2004.9

